



<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/intl-activities/exchange/sp-uni.html>

(2022年1月31日現在)

# STRATEGIC PARTNERSHIPS PROJECT

戦略的パートナーシップ大学プロジェクト



# STRATEGIC PARTNERSHIPS PROJECT

戦略的パートナーシップ大学プロジェクト

## 戦略的パートナーシップ大学とは

### What are Strategic Partnerships?

東京大学では、どの大学とも一律の関係を結ぶのではなく、双方の大学の強みを活かし、各部局・各分野における研究交流を基盤とした教育交流を大学として束ねることにより、本学と通常の大学間交流協定を超える総合的・互恵的で特別な関係性をもつ海外の大学を「戦略的パートナーシップ大学」と呼び、教育研究活動・交流を推進しています。



## 戦略的パートナーシップ大学プロジェクトの目的

### Aims

国際的な教育研究の交流を推進するだけでなく、多様で分野横断的な交流を推進し、教職員・学生(大学院学生と学部生)の流動性を高めます。これらの効果的かつ総合的な活動を通じ、本学の卓越した教育研究活動をさらに国際的に展開し、本学の国際的なプレゼンスを強化します。

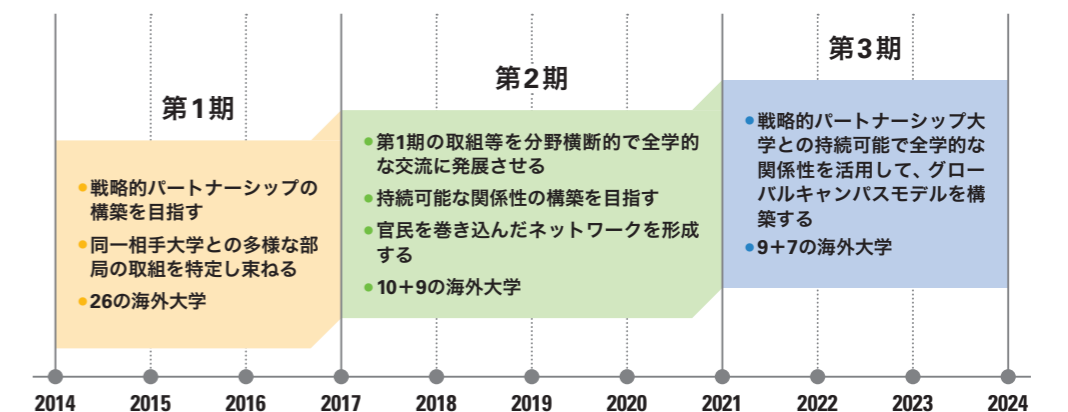
## 戦略的パートナーシップ大学プロジェクトの概要

### Project Outline

本プロジェクトは、3つの工程に分けて活動を推進してきました。第2期(2017-2020年)では、第1期(2014-2016年)までの戦略的パートナーシップ構築プロジェクト等を通じて各部局で既に実施されていた取組を発展させ、部局間協力を含むネットワークをグローバルキャンパス推進本部がサポートしながら束ねることにより、外部資金の獲得等、将来の関係強化に取り組むことで、パートナー校との持続可能な関係性の構築を進めています。

第3期(2021-2024)では、戦略的パートナーシップ大学との持続可能で全学的な関係性をもとに、より一層の教育研究活動を推進するため、主要な戦略的パートナーシップ校9校と、戦略的パートナーシップ構築を見通せる大学7校とのプロジェクトを支援しています。

### 戦略的パートナーシップ大学プロジェクトの工程



## パートナーシップ校および参画部局一覧

### Department List

現在、東京大学では主要な戦略的パートナーシップ校9校と、戦略的パートナーシップ構築を見通せる大学7校とのプロジェクトを支援しています。パートナー校毎に多様な部局によるチームを編成しています。チーム毎の参画部局は以下のとおりです。

### 主要な戦略的パートナーシップ校

<b>オーストラリア国立大学 (ANU)</b> 理 工 経済 総文 公共 地震 大海研
<b>スイス連邦工科大学チューリッヒ校 (ETHZ)</b> 理 工 農 情理 素粒子
<b>北京大学 (PKU)</b> 法 工 総文 数理 公共 東文研
<b>プリンストン大学</b> *プリンストン共同研究教育プロジェクトとして活動
<b>ソウル国立大学 (SNU)</b> 法 医 工 農 総文 数理 学環 公共 生研
<b>ストックホルム大学群</b> Stockholm University, KTH Royal Institute of Technology, Karolinska Institutet 工 医 農 教育 新領域 先端研 IRCN IFI 高齢
<b>清華大学</b> 工 理 総文 新領域 学環 生研 物性研 先端研 IRCN IFI 産学
<b>カリフォルニア大学バークレー校 (UCB)</b> 数理 工 理 総文 教育 社研 IPMU
<b>ケンブリッジ大学</b> 工 人文 薬 数理 公共 生研 先端研

### 戦略的パートナーシップ構築を見通せる大学

<b>国立台湾大学</b> 農 医 工 理 数理 情理 大海研 情基
<b>ミュンヘン工科大学 (TUM)</b> 情理 工 理 学環
<b>シカゴ大学</b> 医 経済 薬 公共 医科研 東文研 宇宙線 素粒子
<b>チリ・メキシコ大学群</b> The University of Chile, Pontificia Universidad Católica de Chile, Universidad de Magallanes, National Autonomous University of Mexico, El Colegio de México 理 工 人文 農 総文 地震 東文研 社研 生研
<b>ベトナム国家大学ハノイ校 (VNU)</b> 工 理 病院 IFI
<b>ヤンゴン工科大学 (YTU)</b> 生研 工 学環 病院 IFI
<b>パリ・グランゼコール群</b> École Polytechnique, ENPC, ENS Paris-Saclay, ENS-PSL, CNRS, Bordeaux University 工 総文 数理 情理 生研 先端研

#### 参画部局凡例

<b>法</b> 法政治学研究所 <b>医</b> 医学系研究所 <b>工</b> 工学系研究所 <b>人文</b> 人文社会系研究所 <b>理</b> 理学系研究所 <b>農</b> 農学生命科学研究科 <b>経済</b> 経済学研究所 <b>総文</b> 総合文化研究科	<b>教育</b> 教育学研究所 <b>薬</b> 薬学系研究所 <b>数理</b> 数理学系研究所 <b>新領域</b> 新領域創成科学研究科 <b>情理</b> 情報理工学系研究所 <b>学環</b> 情報学環・学際情報学院 <b>公共</b> 公共政策学連携研究部・教育部 <b>病院</b> 附属病院	<b>医科研</b> 医科学研究所 <b>地震</b> 地震研究所 <b>東文研</b> 東洋文化研究所 <b>社研</b> 社会科学研究所 <b>生研</b> 生産技術研究所 <b>宇宙線</b> 宇宙線研究所 <b>物性研</b> 物性研究所 <b>大海研</b> 大気海洋研究所	<b>先端研</b> 先端科学技術研究センター <b>IPMU</b> カブリ数物連携宇宙研究機構 <b>IRCN</b> ニューロインテリジェンス国際研究機構 (IRCN) <b>IFI</b> 未来ビジョン研究センター <b>情基</b> 情報基盤センター <b>素粒子</b> 素粒子物理国際研究センター <b>高齢</b> 高齢社会総合研究機構 <b>産学</b> 産学協創推進本部
--	---	---	--

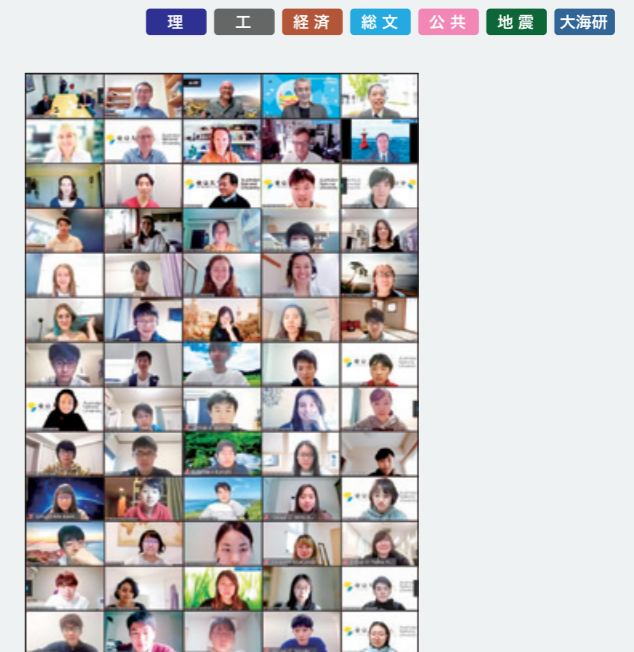
## 主要な戦略的パートナーシップ校

### Primary Strategic Partnership Universities

### オーストラリア国立大学 (ANU)

第2期の活動では、2017年度より両校の学生が参加する合同プログラム「国際研修」を実施しており、2020年度は、ライブ配信によるオンライン型のバーチャル研修を実施しました。本研修では、両校の多分野の関係者、学外教員、NPOや地方自治体の協力を得て、両校が関わる宇宙開発や海洋研究等をテーマに国際共同研究の重要性を、また、災害科学の講義を通じて、経済、テクノロジー、倫理哲学的な側面や一般社会とアカデミアとのコミュニケーション等の広い観点による検討を行うことで、参加学生に多くの示唆を与えました。国際研修を契機としてANUから本学大学院への入学やインターンとして滞在した学生が出てきたことは、大きな成果と言えます。

第3期では、両国の時差が小さいメリットを生かし、必要に応じて対面とオンラインでのハイブリット形式での講義やシンポジウムの開催や、共同研究の実施を産学官で連携しながらさらに発展させていきます。



### スイス連邦工科大学チューリッヒ校 (ETHZ)

ETHZチームは例年、素粒子物理学から建築学に至るまでの分野横断的なシンポジウムを開催しています。2019年には、国際連合の持続可能な開発目標とイノベーションをテーマに第3回シンポジウムを実施し、ETHZ教員と学生を含めて100名以上が参加しました。また、スイス政府・産業界と連携して公開される仮設建築物の制作、本学博士課程に入学したETHZ卒業生のスイス製薬会社との共同研究、素粒子物理学において国際共同研究をベースとした実践的な共同サマープログラムなどが本チームの特筆すべき活動として挙げられます。

現在、宇宙、生命科学、人文社会科学などの分野に連携を拡大するために、総合大学であるチューリッヒ大学も含めて議論が開始されています。



### 北京大学 (PKU)

2015年に戦略的パートナーシップ覚書を締結して以来、両校間で年間100名近い教員学生の派遣・受入が行われてきました。キャンパスアジアやサマーンスティテュートなどの教育交流をカリキュラムの一部として制度化させ、包括的な教育連携を推進しています。各参画部局の共同研究活動などに加えて、学際会合を毎年交互に主催し、グローバル課題について分野横断的な研究交流を進めています。また、両校のパートナーシップを軸に、ソウル国立大学、IARU (国際研究型大学連合)、オーストラリア国立大学などアジア・太平洋の他大学とのネットワークも構築してきました。今後は企業や行政機関とも積極的に連携し、産学官による研究・教育交流を強化していきます。



## 主要な戦略的パートナーシップ校

### Primary Strategic Partnership Universities

#### プリンストン大学

プリンストン大学は2013年1月に本学で初めて戦略的パートナーシップ覚書を締結したパートナー校です。共同研究・教育プロジェクトをこれまでに9回公募し、合計29プロジェクトを採択、先端的な研究や学生交流を推進してきました。

本プロジェクトは、両校のJoint Governance Committeeによる合同審査を経て、共同ファンドから各プロジェクトへ効果的に助成することで、これまでに緊密に交流してきた公共政策、東アジア研究、宇宙物理学の分野に加え、新たにAIや数学の分野など広範な分野での交流が進められています。

また、両校において定期的なイベント UTokyo Days、Princeton Days を開催し、全学的な交流も深めています。2021年3月にはPrinceton-UTokyo Day (オンライン)を開催し、両校の教員による研究交流実績やパートナーシップの概要に関する発表、本パートナーシップによる交流に参画した大学院生・若手研究者によるパネルディスカッションが行われ、今後のパートナーシップに対する具体的な提案など活発な議論がありました。

\*プリンストン共同研究教育プロジェクトとして活動



#### ソウル国立大学 (SNU)

ソウル国立大学との交流は長い歴史を持ち、全学協定、部局協定などに加え、2014年から相互にオフィスが設置され強い繋がりを維持してきました。更に、2015年に戦略的パートナーシップ覚書を締結し、本学から9部局が参画し、両校間で年間100名超の教員学生の派遣・受入が行われてきました。各部局による組織的な教育・研究交流のほか、学際会合を2017年から毎年開催し、共通課題や先進的なテーマに関して活発な議論を積み重ねてきました。両校間の交流により多くの人材が育成されてきたことも大きな資産で、同窓ネットワークの強化及び次世代への発信を目指したシンポジウムを開催し、時代の変化に合わせた新たな両校間の交流も促進しています。

法 医 工 農 総文 数理 学環 公共 生研

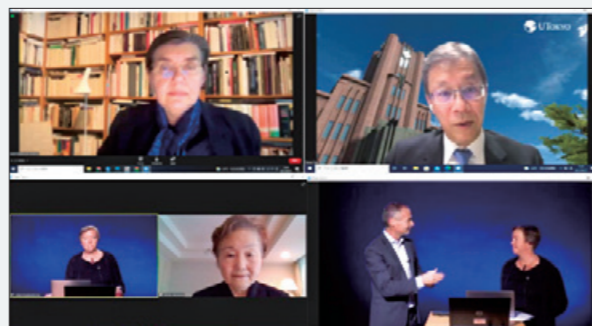


#### ストックホルム大学群

Stockholm University, KTH Royal Institute of Technology, Karolinska Institutet

ストックホルム大学群と本学において開催してきた国際ワークショップは、「高齢化社会」などスウェーデンと日本の共通の課題で、学術的な要請も大きいテーマを、工学・医学・社会科学等の多面的な角度から取り上げてきました。2020年と2021年のいずれもCOVID-19の影響でフィジカルな交流ができないなど困難に直面しましたが、パンデミックにより両国で経験したノウハウを研究・教育交流に活かして、さらに持続可能なものに発展させるため、Online Workshop on Sustainable Developmentを実施しました。今後も、4機関の連携をさらに促進し、両国の大使館などの協力も得て、教育と研究を通じて持続可能な社会の発展に貢献することを目指していきます。

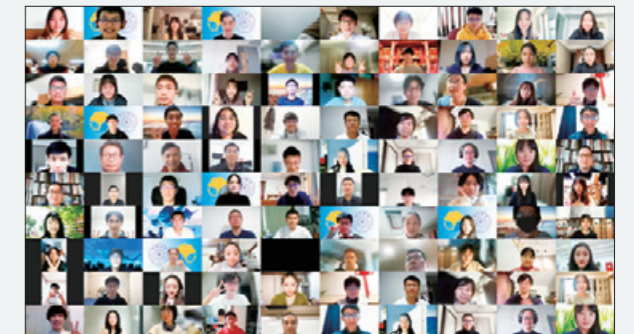
工 医 農 教育 新領域 先端研 IRCN IFI 高齢



#### 清華大学

工 理 総文 新領域 学環 生研 物性研 先端研 IRCN IFI 産学

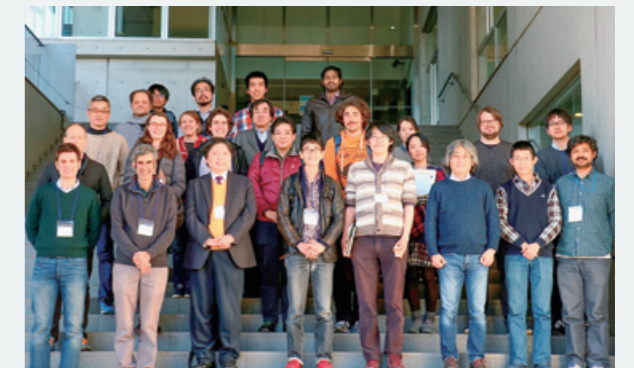
2020年度の合同シンポジウムは、基調講演をはじめ9セッションのワークショップがすべてオンラインで行われ、Innovative thinking and teamwork (ものづくり工学に関するチーム作業)では、学生間によるリモート共同作業が実施されました。リモートでの機動性を活かして2021年3月には、本学と清華大学の学生によるオンライン言語交流イベントを開催しました。幹事学生が事前に設定した大学や経済に関連する多様なテーマについて、参加学生はグループに分かれて意見を交換しました。両校から学部生・大学院生60名あわせて120名の学生が参加するなど、双方の関心は大変高く、2021年10月には第2回目が行われました。今後も、これまで構築した様々なネットワークの更なる強化を図り、未来社会への分野横断型の教育・研究交流を継続していきます。



#### カリフォルニア大学バークレー校 (UCB)

数理 工 理 総文 教育 社研 IPMU

2019年にバークレーで開催した整数論のResearch Training Groupやワークショップ“New Developments in Quantum Topology”など、第2期の活動では、学生の教育に重点を置きながら、各分野での研究交流を進展させてきました。第3期では、「国公立研究大学における高等教育と学術研究の将来像構築」というチーム全体としての理念を掲げて、参加する学内各部局の連携に基づいた学際的テーマも含めて活動の幅を広げるとともに、第2期までに築かれた東京大学とバークレーの交流を基礎として、各分野での研究交流をさらに進めます。第2期に引き続き、双方向の活発なコミュニケーションを基盤とする、文理融合・分野横断的な交流の枠組みを一層発展させていくことを目標としています。



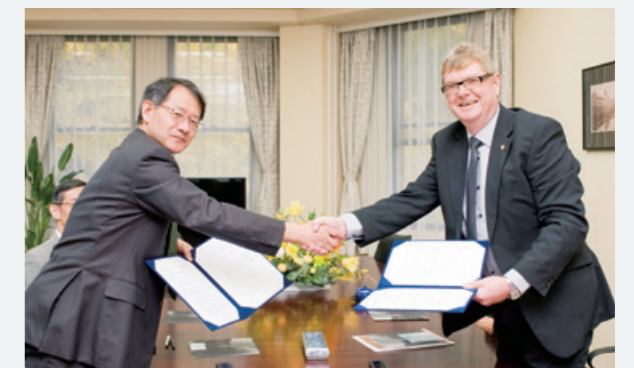
#### ケンブリッジ大学

工 人文 薬 数理 公共 生研 先端研

ケンブリッジ大学チームでは、2015年より両校で交互に合同シンポジウムを開催しており、2020年には両校による対話シリーズ「UTokyo-Cambridge Voices」を開始しました。その一環として、「Education in the Time of Novel Coronavirus」をテーマとした全学的な合同シンポジウムを2020年11月にウェビナー形式で開催しました。このシンポジウムでは、両校の副学長・研究科長を中心に発表を行い、コロナ禍においてどのように教育するかについてグッドプラクティスを共有するなど議論を深めました。

これを皮切りに、薬学系研究科、公共政策大学院、工学系研究科、生産技術研究所、先端科学技術研究センターなどの参画部局が、幅広い研究分野のオンラインセッションを開催し、交流を深めてパートナーシップのネットワークを強化しています。

さらに、2021年度には第6回東京大学-ケンブリッジ大学合同シンポジウムシリーズとして「COVID-19に関する研究と挑戦」、「持続可能な都市」、「パンデミックとその後の国際共同研究の展開」を開催しました。これらは、広く市民にも公開され、高い評価をいただきました。付随して、各部局を中心としたワークショップも開催されています。



## 戦略的パートナーシップ構築を見通せる大学

Prospective Strategic Partner Universities

### 国立台湾大学

農 医 工 理 数理 情理 大海研 情基

国立台湾大学との交流は、農学生命科学研究科が主幹部局となり、合計8部局が参画しています。主要な事業の1つとして、全学単位のプレナリーセッションに加え、学科ならびに専攻単位での10以上のパラレルセッションからなる合同カンファレンスを、2015年度から両学が交互に主催しています。全体テーマとして“Co-creating the Future Society in Asia”を掲げて本学で開催した2019年大会のプレナリーセッションは、両校の総長、学長も登壇し、約250名の参加者を数える盛況な会となりました。さらに、研究と教育を目的とした教員と学生の相互派遣も活発に行っていました。コロナ禍で物理的交流が困難となった2020年度以降にもオンラインを中心とした交流を続け、協力関係の維持および発展に努めています。



### ミュンヘン工科大学 (TUM)

情理 工 理 学環

2018年から交流分野を冠したUTokyo-TUM Workshop for Excellence, Diversity, and Mobilityと題するワークショップを毎年開催しています。2018年は“Society with Automobiles, Robots, and AI”をテーマに、2日間に渡って東京大学で開催、2020年にはミュンヘン工科大学 (TUM)にて開催されました。研究交流はコロナ状況下でも継続されており、2021年にはオンラインにて開催されました。第3期からはポスト・コロナ、ウィズコロナの状況を踏まえつつTUMをハブとした産官も含めた活動に拡大していくことで、マッチングファンド・外部資金の活用や、学生の将来のキャリアも見据えた教育、研究の交流、実施を目指します。



### シカゴ大学

医 経済 業 公共 医科研 東文研 宇宙線 素粒子

各部局での共同研究の交流をベースに合同フォーラムや学生交流ワークショップを開催し、文系・理系の部局にて連携を進めてきました。2018年開催のシカゴ大学との合同フォーラムではビッグデータを論じる講演、学生交流ワークショップでは歴史、宗教研究、文学、美術史にまたがる広い意味での日本研究をテーマとした分野横断的な発表が行われました。2020年には文系部局を中心に東北大学も含めた三校合同院生の日本研究ワークショップをオンラインで開催し、歴史、ジェンダー、宗教研究など様々な視点からの日本研究に関する発表と活発なディスカッションを行いました。これは2015年から二校で行っていたワークショップに、多様性を増やして更なる活発な発表議論を行うため、積極的に国際化を進めている東北大学と三校間で実施するに至ったものです。第3期は更なる分野の拡大を目指し、文理合同で分野横断的な国際共同会議や学際的シンポジウムとともに、テーマ設定型シンポジウムの随時開催を目指します。



### チリ・メキシコ大学群

理 工 人文 農 総文 地震 東文研 社研 生研

The University of Chile, Pontificia Universidad Católica de Chile, Universidad de Magallanes, National Autonomous University of Mexico, El Colegio de México

本チームでは、定期的に文理融合で「日本チリ学術フォーラム/日本ラテンアメリカ学術会議」を開催しています。毎回学長を含め、教職員と学生、250名程度の参加者がおり、10を超える学術分野での多様な視点から学術交流を図っています。教育プログラムでは、実践的な研修として理工系の実験・観測・調査などをチリ・メキシコ・日本で行い、参加学生は共同研究も行いながら専門的な知識と基礎技術を習得しています。また人文社会科学系によるメキシコ国際研修プログラムでは、参加学生はスペイン語で発表等の準備を行い、交流大学やNGO、農家、日系自動車工場、マヤ遺跡などを訪れ、現地の人たちとの交流を通じて、メキシコの豊かな文化・歴史・生活を総合的に体感するとともに、友情を育んでいます。



### ベトナム国家大学ハノイ校 (VNU)

工 理 病院 IFI

ベトナム国家大学ハノイ校とは、第1期において分析化学に関する共同教育プログラムを立ち上げ、講義や実験のカリキュラム等の構築を進めてきました。第2期では日本の産業界の協力も得て、共同教育の実践に取り組み、ベトナム国家大学に分析実験室を整備、2019年度、化学科と環境学科の300名を対象に共同で構築した分析化学実験プログラムを本格稼働させました。学生実験に重要であるティーチングアシスタント (TA) の育成のため、博士課程学生らを招聘して、本学工学部の分析化学実験実習を実施、また本学の学生を派遣しTAとしての教育経験を積ませました。今後、学生交流・教育プログラムは分析化学教育に加え、物理、医学、バイオ、データサイエンスなどに分野を拡大していきます。



### ヤンゴン工科大学 (YTU)

生研 工 学環 病院 IFI

第1期には都市の安全や防災を中心とした研究を生産技術研究所 (生研) とヤンゴン工科大学 (YTU) で行いました。第2期では工学系研究科や情報学環の参画に基づき、研究分野と相手国のカウンターパート (CP) の拡大に努めました。具体的には、分析化学やジャーナリズムなどの分野とヤンゴン大学等、他大学関係者への広がりです。第2期までの活動では、JICA (国際協力機構)-JST (科学技術振興機構) の地球規模課題解決研究プロジェクト (生研とYTUが基幹組織) と連携し、効率的な活動に努めました。CPの教員と大学院生の研究と教育の向上を目的とした日緬両国の教員と学生が参加する共同セミナー (5~6回/年) を行っていますが、このセミナーはCPにはもちろん、本学の学生も大きな刺激になっています。



### パリ・グランゼコール群

École Polytechnique, ENPC, ENS Paris-Saclay, ENS-PSL, CNRS, Bordeaux University

本チームでは、教員と学生の相互交流を通じて、多岐にわたる学術分野の活発な教育・研究活動を推し進めています。従来の学術領域を横断するデジタル・ヒューマニティーズの分野では、総合文化研究科が、美術史研究とデータ分析を文理融合の観点で進めるフランスENS (パリ高等師範学校) の研究ユニットArtI@sとの共同研究を行ってきました。2017年度に国際シンポジウム「デジタルと芸術」、2018年度に若手セミナー「人文科学とデジタル」、2019年度に国際シンポジウム「近代美術コレクションの形成と移動-歴史研究とデータベース活用」を本学にて開催しました。ENSで開催された2018年度・2019年度のシンポジウムやセミナーには、情報理工学系研究科が参加し、教員や学生が発表を行いました。2020年度には、両研究科とENSでオンライン国際シンポジウム「AIと人文科学：国境を越えて・分野を越えて」を開催し、分野横断的な学術交流を活発に行っています。





## インフォメーション

Information

### 戦略的パートナーシップシンポジウム

「戦略的パートナーシップ」の趣旨について改めて理解を深めていただくとともに、これまで進めてきた多様で分野横断的な活動状況と今後の計画について発表の機会を設け、グッドプラクティスの共有を図ることを目的として、「戦略的パートナーシップシンポジウム」を毎年開催しています。国内外のゲストによる基調講演、海外の大学間連携・大学の役割等のテーマにおけるパネルディスカッション、また各チームの活動報告を通し、将来の戦略的パートナーシップのあり方について、模索する機会となっています。



### 大学の国際化促進フォーラム

2021年9月、文部科学省により、国際化を牽引する大学群の多様な実績の横展開・連携を強化する環境を整備し、ニューノーマルに向けた高等教育の更なる国際通用性・競争力の強化を目指す「大学の国際化促進フォーラム」が発足しました。本フォーラムは、我が国の大学の国際化をオールジャパンで促進する大学の主体的な活動の場として、スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）採択校を中心に世界展開力採択校や希望する大学・機関等がフォーラム会員となり、文部科学省等関係機関とも連携しつつ、大学の国際化に関する取組みや研究の実施・共有・展開、情報の提供・共有を行う連携体です。本フォーラムでは、参加大学が牽引する様々な国際化に関するプロジェクトが運営され、参画を希望する大学間において具体的な横展開・連携が行われます。

現在、18大学による19プロジェクトが進められており、本学は「国際競争力強化に向けた『戦略的パートナーシップ』のネットワーク構築」プロジェクトを提案し採択されています。本プロジェクトでは、国内の戦略的パートナーシップ実施大学や検討大学と、戦略的パートナーシップに関するグッドプラクティスや課題を共有し横展開を行うことにより、戦略的パートナーシップに係るネットワークを構築していきます。また、シンポジウム等を通じて広く社会に情報発信していくことで、戦略的パートナーシップの意義への理解や認知度を高め、我が国の高等教育の国際通用性・競争力向上を図り、国際的なプレゼンスを高めることを目指しています。

<https://tgu.mext.go.jp/forum/>